

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②施設・事業所情報

名称：しらかばこども園	種別：幼保連携型認定こども園	
代表者氏名：浜田 和幸	定員（利用人数）： 158（174）名	
所在地：〒239-0806 横須賀市池田町1-22-12		
TEL：046-834-0690	ホームページ： https://www.shirakabakids.com/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2015年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人誠心会		
職員数	常勤職員： 30名 非常勤職員 21名	
専門職員	保育教諭 40名 事務員 3名	
	栄養士 1名	
	調理師 3名	
施設・設備の概要	保育室：本園5、池田分園2 会議室、休憩室、調理室、倉庫 新大津分園2	

③理念・基本方針

<基本理念>

みんないっしょの教育・保育・福祉

<基本指針>

- ・子どもの育つ力を支援する。
- ・優しさと思いやりの心を育む。
- ・子ども、保護者、保育者の三位一体で育て慈しむ気持ちを育む。
- ・給食は手作りで、美味しく感謝の気持ちで食す。

<三つの目標>

- ・自分から挨拶の出来る子になろう。
- ・いつも笑顔で、相手に優しい気持ちを持てる子になろう。
- ・何事にも一生懸命に取り組める子になろう。

④施設・事業所の特徴的な取組

○昭和45年の保育園開園当初より、健常児と障害児を分け隔てなく保育する「みんないっしょの保育」を実践している。幼保連携型認定こども園「しらかばこども園」でも基本理念を引き継ぎ、「みんないっしょの教育・保育・福祉」として、7つの実践に取り組んでいる。

- ①忍者遊具を活用しての運動教育の実践
- ②歌や楽器を活用しての音感教育の実践
- ③農園を活用しての農業体験の実践
- ④収穫した野菜を食材にした食育体験の実践
- ⑤統合教育・保育の実践
- ⑥施設内の放課後児童クラブを活用しての異年齢児交流の実践
- ⑦高齢者施設を訪問しての異世代交流の実践

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年5月31日（契約日）～ 2024年2月20日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2017年度）

⑥総評

<p>◇事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等</p> <p>○幼保連携型認定こども園「しらかばこども園」は、2～5歳のこどもたちが本園を、0～1歳の子どもたちは、近隣の「池田分園」と「新大津分園」を利用している。園内及び近隣で学童クラブ（放課後児童健全育成事業）を3ヶ所運営するとともに、家庭的保育事業にも取り組んでいる。</p> <p>○各クラス名は、なめこ、らっきょう、うめぼし、むぎめし、おきあみなど昔の食材の名前を使用している。給食にも、むぎめしを提供しているが、子どもたちはおいしいとお代わりをしている。</p> <p>○近隣に3ヶ所の農園があり、ぼくらの里山として「しらかばビオトープ」を整え、子どもたちが自然に触れることができる機会を多く作っている。また、アスレチック遊具や「しらかばスタジアム」で、子どもたちが自由に身体を動かすことができるようにしている。天気の良い日は、子どもたちは外に出かけ、のびのびと意欲的に活動している。</p> <p>○子どもとの対話を重視し、「応答的保育」（子どもが話しかけてきたことに対して、大人が子どもに寄り添って応えること）を実践している。大勢の前では発言できない子どもについては、個別に会話ができる場を設け、子どもが安心して気持ちを伝えられるようにしている。</p> <p>○2歳から日直当番があり、タスキをかけ、クラス担当と一緒に皆の前に立ち、昼食時の挨拶をしている。5歳児になると、クラス全体を見渡し、状況を判断して号令をかけるなど、日直としての責任感を持って当番を行っている。行事やイベントも多く、保護者や地域の人に披露することで、子どもたちの自信につながっている。</p> <p>○0歳児は2つの分園を利用している。個別指導計画に基づき、管理栄養士が保護者と連携しながら、「安心・安全」な離乳食を提供している。喃語（「あうあう」「んまうま」など赤ちゃん特有の言葉）に対する応答など、応答的保育や欲求を受け止めながら、情緒の安定につなげている。</p> <p>○3歳未満児の保育は、保育教諭が散歩の途中で、大きな声で挨拶するのを見て、子どもも大きな声で挨拶している。食事介助時、「自分でやる」と子どもから発信があった場合は、タイミングを逃さずスプーンを渡し、子どもの気持ちを大切にしている。子ども同士のトラブルは、まずは見守って、子どもたちの気持ちを大切に、友だちとの関わりを学ぶ機会としている。</p> <p>○3歳以上児の保育は、自分の言葉で思いを伝えることの大切さを指導している。子どもが喧嘩した時は、3歳児は静かな場所で本人の訴えを聞くようにしている。4歳児になると、本人の言葉で状況を説明できるようになっている。5歳児は周りの子どもからも状況を聞くなど、子どもの発達段階に応じて対応し、子どもたちが自分の言葉で気持ちを伝えることができるよう関わっている。</p> <p>○食育に力を入れ、給食で使用するほとんどの野菜は、園の農園で栽培している。農園を管理する人も、複数名職員として採用し、安全な栽培に取り組んでいる。子どもたちは種まきや収穫を行い、野菜がどのように実っているのか、保護者に報告している。月1回の「弁当日」は、弁当箱に給食を詰めてもらい、近くの公園や屋上など、それぞれのクラスが好きな場所で、ピクニック気分で食事をしている。月1回、栄養士が給食だよりを発行し、レシピを掲載して、自宅でも子どものリクエストに対応できるよう配慮している。食事の量は、個々の気持ちを優先している。自</p>

分たちが収穫した野菜を使った給食で、子どもたちの食材への興味も高い。収穫時期ごとに、収穫した野菜と、どんな食材として使用したかを掲示している。

◇独自項目への取り組み

○事業所が次の取り組みを計画する「課題抽出項目」に取り組んでいる。「保育士等が主体的に保育実践の振り返りを行い、保育実践や専門性の向上に努めている」の項目に対して、今後の具体的な取り組み内容を決めている。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度は、前回受審から6年ぶりの機会を頂き、ありがとうございました。

当園は昭和45年に『みんないっしょの保育・教育』を基本理念に掲げて開園した「しらかば保育園」の43年にわたる実践を経て、平成27年にスタートした「こども子育て支援新制度」とともに「幼保連携型認定こども園」へと移行して10年目を迎える節目でありました。

横須賀市の人口減少と次元の異なる少子化の進行が加速する中、「こども園」の生き残りをかけた最終局面での受審となりました。ご指摘いただいた反省点等を踏まえて、保護者や関係機関等からのご支援を頂けるようすべての職員が一致団結して大切な子育て支援及び乳幼児保育・教育を継続できるよう真摯な気持ちを持ち続け、皆様のご期待に応えられるよう励んでまいります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり